

ビキニ被災支援 ニュース

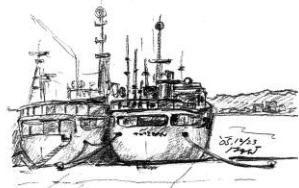
2025年11月27日

室戸の会

No.70

発行 ビキニ被災を支援する室戸の会 太平洋核被災支援センター

連絡先 事務局 宿毛市 088-066-1763(山下) 室戸の会 0887-35-8725(濱田)



ビキニ被災「健康相談会」(高知県健康対策課) 11/10 室戸にて

－高度ながん治療施設を持つ病院を東部にもこそ配置を－

高知県健康対策課は、「太平洋核被災支援センター」や市民からの要求もあり、1954年～1958年のアメリカによるビキニ水爆実験に関連して被害を被った漁民や関連する方々のための「健康相談会」を実施しています。この取り組みは2014年に広島大学の星先生たちのチームがビキニ被災船員の調査を始めたことをきっかけにして、2015年3月16日には室戸市で高知県がビキニ被災船員健康相談会をおこなったことから始まったものです。

この相談会には、星先生たちのチームが参加し、一緒に相談に乗るという取り組みになっていました。その年の11月1日には土佐清水市で同じように相談会を開催しています。翌年(2016年7月17日)は高知市で健康相談会が行われています。

2018年にビキニ国賠訴訟の判決がありました。原告敗訴という結果でしたが、判決の中ではビキニ事件では、当時の遠洋マグロの船員は被ばくしていることを認め、しかし、被爆者援護法はその対象が広島と長崎の被爆者に限られていることからビキニ被災船員はその対象にならず、新たな法律がつくられるか、行政としての何らかの取り組みが求められるということが語られていました。

そのような裁判の結果も受け、太平洋核被災支援センターは県に対して何らかの措置を取るように訴えかけをしてきました。そうする中、高知県は2019年に「ビキニ環礁水爆実験の被災者支援」事業を実施することになったのです。2022(R4)年にシンポジウムがおこなわれ、2023年2023年からは「ビキニ環礁水爆実験に関連し健康不安を抱かれている方のための健康相談」会を実施することになり、2023年は室戸市、2024年高知市とおこなわれ、今回室戸での実施となったものです。全体の流れとしては、放射線に関しての講和、意見交流、個別相談という流れです。

地元からは元船員が2名、遺族関係者が2名、支援者ら7名が参加しました。



◆放射線被ばくに関する講和

今回の講師は木村智樹(高知大学医学部教授)さんでした。木村さんは放射線治療が専門ということで、高知大学を卒業後広島大楽や広島赤十字・原爆病院にも勤務していたということです。話の内容は放射線被ばくの影響について組織障害反応が起こる「確定的影響」と細胞(DNA)障害によって起きる確率的影響があり、確定的影響にはしきい値がある。しかしながらその「しきい値」というものは現実的には幅があるという話でした。実際、被ばく管理の観点からは「しきい値は存在せず、低線量でも線量に比例したリスクの増加がある」という立場をとる、ということでした。ビキニ実験で被曝した船員さんたちはそういうところにいるのだろうということでした。

進行中の裁判では、核実験と癌の発生などの疾患には因果関係があるのかないのかということが問題になっている。どう考えたらよいのだろうかと質問がありました。そのことについて、因果関係があるということを証明することは難しいが、逆に因果関係がないということの証明も難しいだろう。そういう場合は基本的には医療的な補償はされるべきではないかという話をされました。

低線量被ばくと遺伝疾患のことについても心配が尽きないものです。現在のところでは「ヒトの生殖細胞突然変異検出は、特に低線量では困難である。動物実験では高線量を照射すると子孫に様々な障害(出生時障害、染色体異常など)が起こるが、これまでのところ原爆被害者の子どもに臨床的または潜在的な影響を生じたという証拠は得られていない。」(放射線影響研究所のHPより)ということでした。

後半はがんの放射線治療についてでした。現在放射線による治療はかなり進んでいて、県内には5つの病院でその治療が行われているそうです。高知市に4つ(国立高知病院、高知大学医学部付属病院、医療センター、高知赤十字病院)、幡多に一つ(幡多けんみん病院)です。

◆意見交流

元船員のお二人からは、当時水揚げの時にガイガーカウンターで調べられ魚は海に捨てたこと、船員も腹巻や、特に軍手からは大きな反応があったこと、また、船員らの検査をちゃんとやってくれていたら助かった命もたくさんあったのではないかという話がされました。

支援者からは、内部被ばくや低線量被ばくのこと盲腸のことなどが質問として出されました。また話を聞く中で、高度な放射線治療ができる病院が、がんの発症率が高い東部にないというのはおかしい。という意見も出されました。

◆個別相談

室戸市の健康対策課の職員も参加してくれており、個別相談では日常的な相談などもされていました。

◆感想

1954年当時まぐろ船に乗っていた方は、15歳で初めて乗った方は86歳ですので、皆さん高齢になっています。しかし、アメリカは太平洋上では1962年まで核実験を行いました。その年に15歳で乗り始めた方は78歳です。「俺らあはビキニのあとやき」と言う方もおいでますが、核実験が行われている以上被ばくしている可能性はあります。県の方にも、対象を広げることを申し入れたいと思います。また、今回、高度な放射線治療が行われる病院が東部にないということもわかりました。がんによる死亡の割合が高い東部です。その東部にこそ治療できる体制が必要です。安芸病院でも治療ができるようにぜひともしてもらいたいものです。



トランプ氏、核兵器の実験再開を指示



10月31日の高知新聞は次のように報道しました。

「トランプ米大統領は、30日国防総省に『核兵器の実験を指示した』と交流サイト(SNS)で発表した。他国の核軍拡計画を踏まえ、対等な立場になる必要がある。と主張中国やロシアへの対抗心を示し、実験に向けた作業は直ちに始まると表明した。核爆発を伴う実験を再開すれば1992年以来となる。核軍縮に逆行し軍拡競争を招く恐れがある。被爆地の広島と長崎では反発の声が広がった。」

この後11月5日にはプーチンロシア大統領も「核兵器実験の可能性に関する提案を起草するよう政府高官に指示した」と報じられています。実験であろうと核爆発がどのような大きな人的被害、環境汚染を引き起こすのか、起こしてきたのか知らないはずはないと思います。それをおこなおうというのは言語道断です。即刻、その指示を撤回し、そして核兵器廃絶に踏み出すことを求めます。

第11加取丸は1958年に被ばく？

室戸岬船員同志会の発行していた「遠洋」No.48(1958年12月)には、つぎのような記述があります。

- ・1958年8月11日。第11加取丸船員の一部、頭痛、下痢の病状を訴え、太平洋上における相次ぐ水爆実験があり、一応最悪の事態を考え、精密検査を行うことを決定。二班に分かれて船員保険中央病院にて受診できる手配を取り、早速七名検診。結果判定は後日になるとのこと、残りの人員は明日受診。
- ・1958年8月15日。第11加取丸船員、検診結果について中央病院より連絡があり。一名要注意。今後の厳密なる検査に、改めては如何とも言えぬが、一応再検査を要するとのこと。ほかは問題なし。

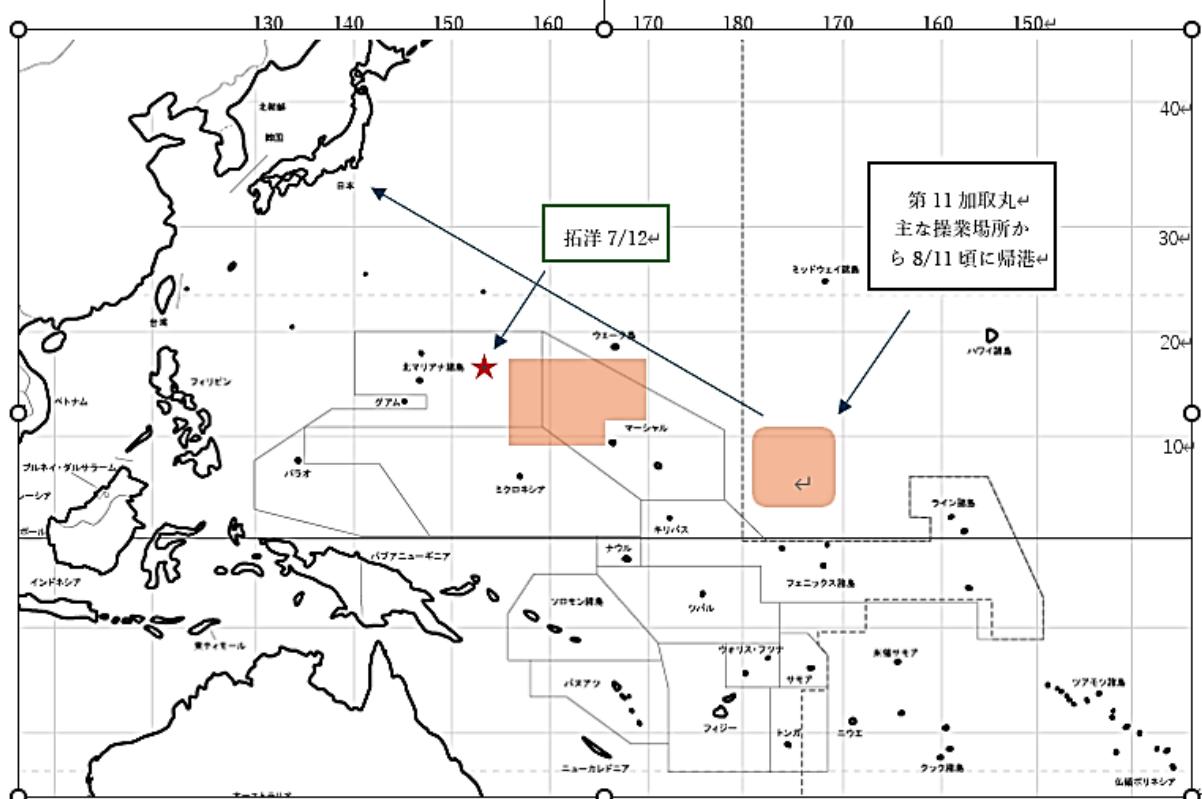
これは、日誌風に書かれていた記事の一部です。要するに、船員の一部に原因不明の頭痛や下痢の症状があって、急遽帰港したのだと思われます。問題は、1958年8月のことだということです。いわゆるビキニ事件の4年後のことです。次のページの核実験の一覧表を見ると、この年は「ハードタック作戦」がおこなわれていてマーシャルでは35回の実験が行われています。その中にはメガトン級のものもいくつかあります。二つ目には、そういう中でも操業がおこなわれていたという事実です。第11加取丸は当時マーシャルの東海域で操業していたようです。その海域からさらに南の海域も含めてかなりの船が操業していたと思われます。1957年の新聞記事には室戸の船だけでも約50隻が操業していたことが報じられています(1957.1.13高知新聞)。

2024年の10月に室戸岬で船員さんを訪ね歩いていた時に、年配の船員さんでHさんという方がいるということで地域の方に紹介してもらって、訪ねました。話を伺うと偶然にも第11加取丸という船に乗っていたということでした。「ビキニの後、マーシャルの近くで操業していた。サモアの方には行っていない。築地に水揚げした後、品川の船員の関係の病院に行けと言われて、みんなで行った。白血球とかを調べた。特に何もなかったと思う。」ということでした。一名が要注意だということについてはわからないということでしたが、確かに、病院で検査を受けるという出来事があったということが確認できました。

この年は、「第4の被曝」で話題になった測量船「拓洋」が被ばくした年でもありました。7月12日に「ポプラ」という実験が行われています。規模は9.3Mtということでとても大きな実験だったようです。第11加取丸もこの「ポプラ」の影響を受けたことは十分考えられます。

この年は、8月18日にも第7幸鵬丸と第5寿々丸の船員二名が原因不明のまま、体調が悪くなり、横須賀共済病院で診察を受けています。診断の結果は異状なしということだったようですが、詳細は分かっていません。

[1958]年の核実験とマグロ船の操業←



日	名前	場所	規模	日	名前	場所	規模
4/28	ユッカ	エニウェトク	1.7Kt	6/27	レッドウッド	ビキニ環礁	412Kt
5/05	カクタス	エニウェトク	18Kt	6/27	エルダー	エニウェトク	880Kt
5/11	フィー	ビキニ環礁	1.36Mt	6/28	オーク	エニウェトク	8.9Mt
5/11	バターナツ	エニウェトク	81Kt	6/30	ヒッコリー	ビキニ環礁	14Kt
5/12	コア	エニウェトク	1.37Mt	7/01	セコイア	エニウェトク	5.2Kt
5/16	ワホー	エニウェトク	9 Kt	7/02	セダー	ビキニ環礁	220Kt
5/20	ホリー	エニウェトク	5.9Kt	7/05	ドックウッド	エニウェトク	397Kt
5/21	ナツメグ	エニウェトク	25.1Kt	7/12	ボブラー	ビキニ環礁	9.3Mt
5/26	イエローウッド	エニウェトク	330Kt	7/14	スカエボラ	エニウェトク	0
5/26	マグノリア	エニウェトク	57Kt	7/17	ビソニア	エニウェトク	255Kt
5/30	トバコ	エニウェトク	11.6Kt	7/22	ジェニファー	ビキニ環礁	65Kt
5/31	シカモール	ビキニ環礁	92Kt	7/22	オリーブ	エニウェトク	202Kt
6/02	ローズ	エニウェトク	15Kt	7/26	パイン	エニウェトク	2 M t
6/08	アンブレラ	エニウェトク	8Kt	8/01	ティーカー	ジョンストン	3.8Mt
6/10	メープル	ビキニ環礁	213Kt	8/06	クインス	エニウェトク	0
6/14	アスペン	ビキニ環礁	319Kt	8/12	オレンジ	ジョンストン	3.8Mt
6/14	ウォルナット	エニウェトク	1.45Mt	8/18	フィグ	エニウェトク	0.02Kt
6/16	リンデン	エニウェトク	11Kt				

◆1958年はハードタックI作戦がおこなわれ、マーシャルでは35回の実験が行われた。